

# 東京大学史史料室ニュース

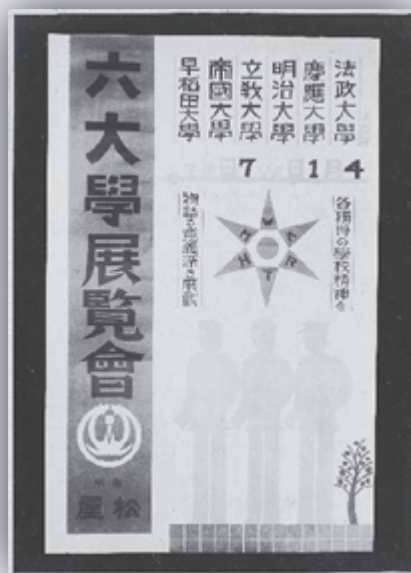
第49号 2012・11・30

## 目 次

1930年代の東京帝国大学—高等試験臨時委員への任命状況—	2
東京帝国大学学生課『学生健康の葉』（1935年）にみる健康のすすめ	4
受贈図書一覧（抄）	6
史料室日誌抄録	8



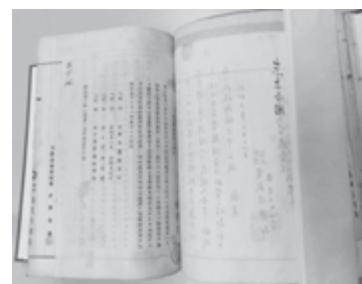
写真帖 縦155mm×横230mm×厚15mm  
表紙素材 クロス地（紺色）



六大学展覧会ポスター



帝国大学（現東京大学）記念品陳列



『諸向往復』  
（昭和五年度）

## 所蔵史料の紹介

弊室所蔵の『六大学展覧会写真帖』である。開催ポスターの写真より開催日（4/1～7）は分かるものの開催年度など詳細が分からなかったため、会場とされた松屋銀座（当時は松屋呉服店）に問い合わせしてみたが確認できなかったものである。この度、史料整理にあたった『諸向往復』（昭和五年）の記載から昭和5年に松屋7階にて開催されたことが判明。「各大学創設功労者（最初ノ総長又ハ校長等）ノ肖像又ハ胸像等ヲ初メ創設ニ関スル文献記念品等ヲ借用展観シ其起源ヲ紹介セントスルモノニ付…」とあり、費用は全て主催者の松屋が請け負ったことが分かる。

## 1930年代の東京帝国大学 —高等試験臨時委員への任命状況—

堀之内敏恵

1930年代における東京帝国大学（以下、東京帝大）の動向を捉える一つの手がかりとして、教授、助教授の高等試験臨時委員（以下、委員）への任命状況を整理してみたい。右の表は1930年代の東京帝大教授、助教授の委員への任命状況を、担当試験科目別に示したものである。外国語と刑事政策を除き、概ねどの科目にも東京帝大教授、助教授、あるいは定年退官後勅任待遇で任命された元教授が配置されており、任命数は1935年を頂点に前半は微増、後半は微減しているが、全体の傾向としては大幅な増減は認められない。以下、具体的な任命状況を法学部、経済学部、文学部の順に概観する。

まず、高等試験の試験科目と東京帝大法学部の講義科目は必修、選択の区別を含め対応関係にあったという。したがって、法学部教授、助教授が担当するのは、法学部に講座が開設され高等試験科目になっている憲法、行政法、民法、刑法、国際公法、国際私法、民事訴訟法破産法、刑事訴訟法、商法、外交史、政治学、政治史で、科目数が多い上に、各科の必修科目の大部分を占めているため、委員の任命数も多く、助教授の積極的な登用もみられる。

1930年代に一度でも任命経験のある教授、助教授は23人で、一度も任命されていない教授は、法制史の中田薫、仏蘭西法の杉山直治郎、英吉利法の高柳賢三、英吉利法の末延三次、民法の末弘巖太郎で、前4人については、担任講座が試験科目にないため任命されなかったと考えるのが妥当であろう。法学部が学部全体で高等試験に関係していた様子が窺える。末広については、民法は行政科が穂積重遠、司法科が三瀧信三、外交科が加藤正治に分担されており、担当枠が残っていなかったとも考えられるが、三瀧の死去による司法科の後任には、1937年から我妻栄が任命されている。

1930年代をとおして、14人～16人が毎年任命されており、大幅な増減はみられないなかで、目を引くのは憲法担当者の激減である。1934年には寛克彦、野村淳治、美濃部達吉、宮沢俊義の4人が任命されていた。しかし、翌1935年以降は寛のみが任命されている。1935年は激化する天皇機関説事件の進行を受け、発表前から委員の選任が話題になっていた。5月6日付『帝国大学新聞』は「美濃部達吉、渡辺宗太郎（京都帝国大学－筆者）両博士は当然委員から除かれることになるが宮沢俊義、野村淳治両氏の委員任免については尚採否何れとも決定されず」と報じ、美濃

部、宮沢は任命されなかった。一方、野村については、行政科では憲法を担当していたが行政法へと担当替えとなり、以降、憲法を再担当することはなかったが、1936年までは東京帝大教授として、退官後は勅任待遇で継続して任命されている。このことは如何に評価出来るのか。憲法担当者の任免問題は、高等試験と東京帝大の関係を考える上で一つの重要な論点であろう。

次に、経済学部（以下、農学部的那須皓を含む）の教授が担当したのは行政科、外交科の必修科目である経済学の他に、選択科目の財政学、商業学、経済史、工業政策、農業政策、商業政策、社会政策で、科目数も少なく助教授の登用はない。

1930年代に一度でも任命経験のある教授は10人で、一度も任命されていない教授は、会計学の上野道輔、殖民政策の矢内原忠雄、財政学の大内兵衛、貨幣論の荒木光太郎、工場経営論の馬場敬治である。大内以外の4人は担当している講義が試験科目にはない。ここで関心を引くのは、担任講座である財政学が試験科目にありながら、一度も任命されていない大内である。財政学については、一貫して同じく財政学を担任講座とする土方成美が任命されている。イデオロギーによる峻別か、あるいは経済学部における覇権が関係するのか、いわゆる「少数派」の上野、矢内原、大内は上述のとおり、一度も委員には任命されておらず、舞出長五郎は1939年に初めて、平賀爾学により退官した田邊忠男、本位田祥男が担当していた経済学、経済史に任命されている。

法学部、文学部の委員が1930年代をとおして、任命数としては安定しているのに対し、経済学部は1935年に田邊、本位田、土方、森莊三郎、中西寅雄、河津暹、河合栄治郎、那須浩の8人が任命されたのを頂点に、平賀爾学後の1939年には、森、舞出、那須の3人に激減しており、経済学部凋落の一端が窺える。

最後に、文学部教授が担当した科目は、1929年3月28日、勅令第15号により「現行高等試験制度ニ於テハ其試験ガ著シク法律学ニ偏シ時代ノ要求合セザルヲ以テ試験科目及試験方法ヲ改善スル」として、選択科目に加えられた哲学概論、倫理学、論理学、心理学、社会学、国史、国文及漢文で、例えば行政科の口述試験では、必修の行政法の他にこれらの文科的科目を含む選択科目から2科目の選択が可能になった。しかし、1929年から1941年の13年間で、行政科の口述試験において、これらの科目を選択した受験者は、哲学概

1930年代の東京帝大教授、助教授の高等試験臨時委員への担当科目別任命状況

年	1930	1931	1932	1933	1934	1935	1936	1937	1938	1939
任命数	27	26	27	30	31	32	30	30	29	25
法学部教授、助教授担当科目										
憲法	寛克彦 野村淳治 美濃部達吉	野村淳治 美濃部達吉	寛克彦 野村淳治 美濃部達吉	寛克彦 野村淳治 美濃部達吉 宮沢俊義	寛克彦 野村淳治 美濃部達吉 宮沢俊義	寛克彦	寛克彦	寛克彦	寛克彦	寛克彦
行政法	美濃部達吉 野村淳治 杉村章三郎	美濃部達吉 野村淳治	美濃部達吉 野村淳治	美濃部達吉 野村淳治	美濃部達吉 野村淳治 杉村章三郎	野村淳治 杉村章三郎	野村淳治 杉村章三郎	野村淳治 杉村章三郎	野村淳治 杉村章三郎	野村淳治 杉村章三郎
民法	穂積重遠 三瀧信三 加藤正治	穂積重遠 三瀧信三 加藤正治	穂積重遠 三瀧信三 加藤正治	穂積重遠 三瀧信三 加藤正治	穂積重遠 三瀧信三 加藤正治	穂積重遠 三瀧信三 加藤正治	穂積重遠 三瀧信三 加藤正治	穂積重遠 我妻栄 加藤正治	穂積重遠 我妻栄 加藤正治	穂積重遠 我妻栄 加藤正治
刑法	牧野英一 小野清一郎 岡田朝太郎	牧野英一 小野清一郎 岡田朝太郎	牧野英一 小野清一郎 岡田朝太郎	牧野英一 岡田朝太郎	牧野英一 岡田朝太郎	牧野英一 岡田朝太郎	牧野英一 岡田朝太郎	牧野英一	牧野英一	牧野英一 小野清一郎
国際公法	山田三良 横田喜三郎	立作太郎 横田喜三郎	立作太郎	立作太郎 横田喜三郎	横田喜三郎	立作太郎	横田喜三郎	立作太郎 横田喜三郎	立作太郎	立作太郎
国際私法	山田三良	山田三良 牧野英一	山田三良	山田三良	山田三良	山田三良 江川英文	山田三良 江川英文	江川英文	江川英文	江川英文
民事訴訟法	加藤正治	加藤正治	加藤正治	加藤正治 菊井維大	加藤正治 菊井維大	加藤正治 菊井維大	加藤正治 菊井維大	加藤正治 菊井維大	加藤正治 菊井維大	菊井維大
刑事訴訟法	小野清一郎	小野清一郎	小野清一郎							
商法	田中耕太郎 加藤正治	田中耕太郎 加藤正治	田中耕太郎 加藤正治	田中耕太郎 加藤正治	田中耕太郎 加藤正治	田中耕太郎 加藤正治	加藤正治 鈴木竹雄	田中耕太郎 加藤正治	田中耕太郎 加藤正治 鈴木竹雄	加藤正治 鈴木竹雄
破産法				菊井維大	菊井維大	菊井維大	菊井維大	菊井維大	菊井維大	菊井維大
外交史	神川彦松	神川彦松	神川彦松	神川彦松	神川彦松	神川彦松	神川彦松	神川彦松	神川彦松	神川彦松
政治学	南原繁	南原繁	南原繁	矢部貞治	矢部貞治	蛭山政道	蛭山政道	蛭山政道	蛭山政道	矢部貞治
政治史						岡義武	高木八尺	高木八尺	高木八尺	高木八尺
経済学部教授担当科目 ※那須皓は農業学部教授										
経済学	河津暹 森莊三郎	河津暹 森莊三郎	河津暹 森莊三郎	田邊忠男 森莊三郎	田邊忠男 土方成美	田邊忠男 森莊三郎	田邊忠男 森莊三郎	田邊忠男 森莊三郎	田邊忠男 森莊三郎	舞出長五郎 森莊三郎
財政学		土方成美	土方成美	土方成美	土方成美	土方成美	土方成美	土方成美	土方成美	土方成美
商業学	河津暹	河津暹	河津暹	中西寅雄	中西寅雄	中西寅雄				
経済史	本位田祥男		本位田祥男	本位田祥男	本位田祥男	本位田祥男	本位田祥男	本位田祥男	本位田祥男	舞出長五郎
工業政策				本位田祥男			山田文雄	山田文雄		
農業政策	矢作栄蔵	矢作栄蔵	矢作栄蔵	矢作栄蔵	那須皓	那須皓	那須皓	那須皓	那須皓	那須皓
商業政策	河津暹	河津暹	河津暹	本位田祥男 田邊忠男	河津暹	河津暹	田邊忠男	田邊忠男	田邊忠男	
社会政策	河合栄治郎	河合栄治郎	山田文雄	河合栄治郎	河合栄治郎	河合栄治郎				
文学部教授担当科目										
哲学概論	伊藤吉之助	桑木厳翼	桑木厳翼	桑木厳翼	桑木厳翼	桑木厳翼	桑木厳翼	伊藤吉之助	伊藤吉之助	伊藤吉之助
倫理学	吉田静致	吉田静致	吉田静致	吉田静致	吉田静致 和辻哲郎	吉田静致 和辻哲郎	吉田静致 和辻哲郎	吉田静致 和辻哲郎	吉田静致 和辻哲郎	和辻哲郎
論理学	伊藤吉之助	桑木厳翼	桑木厳翼	桑木厳翼	桑木厳翼	桑木厳翼	桑木厳翼	伊藤吉之助	伊藤吉之助	伊藤吉之助
心理学	松本亦太郎	松本亦太郎	松本亦太郎	松本亦太郎	松本亦太郎	松本亦太郎	松本亦太郎	松本亦太郎 桑田芳蔵	松本亦太郎 桑田芳蔵	桑田芳蔵
社会学	戸田貞三	戸田貞三	戸田貞三	戸田貞三	戸田貞三	戸田貞三	戸田貞三	戸田貞三	戸田貞三	戸田貞三
国史	黒坂勝美	黒坂勝美	黒坂勝美	黒坂勝美	黒坂勝美	黒坂勝美	黒坂勝美	辻善之助	辻善之助	辻善之助
国文及漢文	藤村作 宇野哲人	藤村作 宇野哲人	藤村作 宇野哲人	藤村作 宇野哲人	藤村作 宇野哲人	藤村作 宇野哲人	藤村作 宇野哲人	藤村作 宇野哲人	藤村作 宇野哲人	藤村作 宇野哲人

出典：『高等試験問題集』巖松堂書店、1936年（17版）、1939年（20版）

- ・上記二版で齟齬が認められた場合、誤記が判明した場合は、官報で任命状況を確認し修正した
- ・□囲みは助教授での任命を、網掛けは勲任待遇での任命を示す。なお、山田三良は京城帝大総長（1931年10月～1936年1月）として任命された年も含む
- ・1930年代を通して外国語と刑事政策には、東京帝大教授、助教授は任命されていない為、本表からは除いた

論2人、倫理学3人、論理学2人、心理学1人、社会学1人、国史10人、国文及漢文0人であったという。体制側の意図に反して、戦前の官吏養成におけるいわゆる「法科万能主義」を改革することは容易ではなかった様子が窺える。法学部の学科目でない国史が、高等試験の筆記、口頭試験で必修となるのは1942年以降である。

時局の影響による特筆すべき変動が見受けられた法学部、経済学部と比べ、文学部の委員は定年退官によ

る交代が大部分を占めており、委員の継続性はより顕著である。

※本稿は Robert M. Spaulding Jr., *Imperial Japan's Higher Civil Service Examinations*, Princeton, 1967, p.171 (table19), p.211 (table24) を参考にした。

(ほりのうち としえ：お茶の水女子大学大学院・博士後期課程)



## 東京帝国大学学生課『学生健康の栞』（1935年）にみる 健康のすすめ

谷本宗生

今回紹介するのは、東京帝国大学学生課『学生健康の栞』（1935年、139頁、縦18.7×横12.7cm）である。『東京大学百年史』などでも従前言及されておらず、弊室員が古書店サイトを介して偶然入手した史料である。本学の図書館などでも残念ながら所蔵されていない、貴重な史料といえる。本書の「はしがき」に「学生は健康への顧慮を後にし、身心の異状を軽視し、不幸にして病魔に犯されてもその初期にあつては姑息な方法を取り勝ちである。そのため最初の僅かな注意によつて免れ得た災禍がその生涯に長く暗影を遺すことにもなる。これらの不幸を無くし、健康なる者は益々その健康を増進し、不健康なる者は之を回復し得るために、適切なる注意、方法を知らしめたい考から、当課内学生健康相談所〔学生課医局〕に於て多年多数の学生を診察して学生保健上の事柄に精通せらるる諸博士学士を煩はして本書を編した次第」とあるとおり、学生への衛生思想の普及徹底が趣旨であることがうかがえる。1932年11月にも、『学生医学の指導』というパンフレットを編集発行しており、それらの経験も踏まえての試みであったと思われる。学生健康相談所〔学生課医局〕では、専門の各科（内科、外科・皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、歯科、レントゲン科、スポーツ医事相談部）を網羅し担当医員を置いて、相談や診療に応じたとされる。診療は無料で、投薬については実費徴収とした。1935年度の利用者は、歯牙疾患をはじめ、眼疾患、耳鼻咽喉疾患などが多く、計2万9百人以上が受診している。

『学生健康の栞』（1935年）の目次項目は、次のとおりである。「巻頭 結核憂ふべし・恐るべからず  
一 冷水摩擦法 二 不眠及頭脳不明晰の治療法  
三 海水浴・登山期に於ける内科的疾患と其注意  
四 日光浴の仕方 五 微熱に就て 六 勉強期の食餌と其頭脳に及ぼす影響 七 食事直前直後に於ける勉強及運動に就て 八 栄養に就て 九 咀嚼に就て 一〇 学生に多い歯の病気 一一 神経衰弱に就て 一二 胃腸病・伝染病・寄生蟲の予防 一三 スポーツと眼 一四 トラコーマに就て 一五 近視眼及遠視眼 一六 眼鏡の選択 一七 眼と神経衰弱 一八 色と頭脳 一九 室内照明に就て 二〇 眼の養生 二一 スポーツと耳疾患並

に其予防に就て 二二 鼻疾患の頭脳に及ぼす影響

二三 結核の予防に就て 二四 咯血時の注意  
二五 手淫に就て 二六 性病に就て 二七 痔に就て 二八 所謂健康法に就て 二九 スポーツと医学 三〇 スポーツと疲労」。巻頭の「結核憂ふべし・恐るべからず」では、「世間には往々医者診察を受けて肺の悪いことを発見されると嫌だから、自分では多少あやしいと思ふが診察してもらはぬといふ者がある。」と注意し、「格別の自覚的症状がない時があるから、健康に自信のある者も時々健康診断を受けることが甚だ必要であつて、この意味から学生諸君に於て定期施行する身体検査に悉く出席せられんことを切望する。」と定期検査の受診をまず呼びかけている。さらに「結核の予防は出来るだけ早期に之を発見し、適当なる処置、即ち極めて僅かの実行容易なる注意を行ふことによつて、完全にその目的を達し得るものである。本学学生諸君が上記の諸点によく留意し、何らか疑念を生じた場合は直ちに学生健康相談所を利用せられ、禍を未然に防ぎ、速かに結核を本学より一掃し、以て範を天下に示されんことを深く望むものである。」とし、学生健康相談所の来室利用を訴えている。いっぽう、「咯血時の注意」では、「咯血した時は、一、先づ寝ること 一、あまり高い声を出さぬこと 一、あはてず心をおちつけること 一、若し悪い場所がわかつてゐる時は其上に、わからなければどこでもよいから氷嚢をのせてもらうこと 一、すぐ医者に来てもらうこと、行つて診察を受けるのはよくない 以上のようにやる方がよい。」(82～83頁)と述べ、診察を受けに行くよりも医師を早急に呼ぶことを奨めている。

同上書では、学生らに普段の日常生活の過ごし方についてもいろいろと必要と思われる助言を与えている。「不眠及頭脳不明晰の治療法」では、「日常の生活法を規則正しくやり、無理な勉強などせず、休みには自然を友として悠々自適したり、適度の運動をして身体を鍛えると云ふことにより漸進的の恢復を期する様に心がくべきである。試験時に頭がのぼせて眠られないとか、頭がぼーんとすると云ふ位のは、寝る前にバケツに湯を入れ、その中に下腿を十五分位温めて置き、次に水道の水を一―二分間位灌注し、そのあと其部分を乾いたタオルでよ

く摩擦するとよい。即ち下肢の血行を旺盛にして脳の血液を足の方へ誘導するために、脳が軽くなり睡眠が取れるのである。尚ほ夜おそく飲食することは避けなければならない。殊に興奮性の飲食物は絶対に宜しくない。」(3～4頁)とし、「日光浴の仕方」では、「先づ強烈な太陽を直射させないがよい。殊に夏ではそうである。日光浴はそれを行ふ土地と日光の照射する時刻によつて条件が異なるべきであるが、ここには東京の様な平地で行ふ場合で且つ健康者が行ふものとして図示する。これを行ふ時刻は夏は午前八時から十時頃の間がよいと思ふ。十月から四月までは午前十時から午後三時までの間がよい。要するに強い光線を避け適量の光線照射でつづけなければいけない。顔は白布で蔽ふか着色眼鏡をかけるが良い。勿論帽子をかぶる必要がある。浴中眩暈を感じたり、気分が悪くなる様なことがあれば中止せねばならない。」(10～11頁)とし、「勉強期の食餌と其頭脳に及ぼす影響」では、「勉強期に於ける食餌としては消化し易い食物を平常より控へ目にすればよい。量は平常量の八割、七割で充分であると思ふ。個人によつては多少差異はあるが一日約二千カロリーで足りると思ふ。獣肉、動物性脂肪、繊維の多い野菜等は消化に長時間を要するから多量を摂らぬが良い。又消化を助けるためによく咀嚼することが必要である。但し身体運動の不足と不消化物の減少の結果は便秘に傾き易いから適度の調節が必要であつて、止むを得ぬ場合には灌腸或は服薬によつて便通をつける。…脳を使ふ場合には神経細胞の新陳代謝亢進を来すわけであるから、細胞の要素である所の蛋白質及び燐等の鹽類が不足に陥らぬ様すべきである。尚ほ胃下垂或はアトニー症の如き疾患のある者は脳のはたらきも明快でないから、平素に於て養生及び医療を行ふて軽快にする様に心懸けねばならぬ。嗜好品中、茶、コーヒー類は適量に用ひると脳の疲労恢復に役立つけれども、就寝前に飲むと安眠が妨害せられるから注意を要する。」(15～16頁)と述べている。

また巷で横行するいわゆる健康法踏襲の危険や不安定な内面を有する神経質な学生への示唆も記されている。「所謂健康法に就て」では、「あらゆる時に万人すべてに適する健康法なるものがないからである。即ちかつて流行し或は現在流行しつつある健康法なるものも一言にして云つてしまへば、ある時ある人には健康法であり、ある場合には非健康法であつて之を行つて却つて害がある場合がある。」(131～132頁)と率直に述べ、「真に健康なる人に健康法

は不必要である。人類の健康保持のためには衛生学なる立派な学問がある。健康に欠点があつた時に始めて其処に健康法の必要が生じて来る。従つてかかる場合には疾患に罹つてゐると見なすべきであり、蒲団をかぶつて寝なければ病気でない様に考へるのは間違つてゐる。病氣にかかつて医者と相談せぬといふことは間違つてゐると思ふ。」(134～135頁)とし、誤つた健康法に陥ることのないように相談所の医師に相談して健康維持につとめてほしいと強調している。「神経衰弱に就て」では、「神経衰弱の發生素地である神経質を矯めて行かねばならぬ。学生課医局を訪れる者の大多数は、特に心身の衰耗によると思はれるものよりも、生来の神経質に由来する神経衰弱が多いのであるから右のことは極めて大切である。」(39～40頁)と多くの神経質な学生が相談所を訪れる事態を重視して、「神経質の人ではこの拮抗する力が極めて強いのである。そのため精神活動が滑かでなく渋滞する。些事に一つ一つ拘泥して行く。そこに煩悶苦慮が感ぜられるのである。之を何とか心機一転せしめたいものでそれには本人自身の努力精神が是非必要である。要は大きなしつかりした人生観が築き上げられればよいので、何ら拘りのない暢達とした生活に入り得ればよいのである。」(40頁)と、些事に拘泥する考え方をなんとか心機一転するよう述べている。心機一転の方策は挙げられていないが、構内(理学部化学教室傍草地周辺)でお昼休みに講師を文部省体育研究所より招いて有志参加で実施されていた保健体操(ラジオ体操、青年体操、スキー体操等)も試みの一つであつたと思われる。

『学生健康の栞』(1935年)は、たしかに健康衛生に関する学生に向けたガイドブックといえるが、残念ながら栞という分量内容からみて少々詳細であつて字面のみでまったく図解などが掲載されていない構成となっている。健康相談所の関係者らのこれだけはぜひ学生に伝えたいという思いはよく分かる。いっぽう、学生に基本的な注意事項を示唆することを第一と想定して項目ごとの文章量もコンパクトなかたちとし、説明上で必要と思われる箇所には適宜図解を掲載するなどの工夫があればもっと読みやすいものであらうと考える。ただもしもそのような変更が可能であつたならば、相談所関係者らのあつたい思い(あれも学生に伝えたいこれも学生に伝えたいという思い)は逆に伝わりにくいかもしれない。

(たにもと むねお：東京大学史料室)

受贈図書一覧（抄）（平成23年2月～平成23年7月）

アーカイブズ 第46, 47号 独立行政法人国立公文書館	平成24年2月, 6月	慶應義塾福澤研究センター通信 第16号 慶應義塾福澤研究センター	平成24年3月
赤門学友会報懐徳 22号 谷本宗生	平成24年3月	皇學館大學百三十年史 総説篇 (学) 皇學館 館史編纂室	平成24年4月
Aoama Gakuin Archives Letter —青山学院資料センターだより— 第6号 谷本宗生	平成24年7月	皇學館大學の再興と発展 —昭和二十一年～平成二十三年— 第七回 (学) 皇學館 館史編纂室	平成24年3月
アルケイアー記録・情報・歴史— 第6号 南山大学史料室	平成24年3月	校史 Vol.22 國學院大學 研究開発推進機構 校史・学術資産研究センター	平成24年3月
GCAS Report—学習院大学大学院アーカイブズ学専攻研究年報— —第1号 学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ専攻	平成23年2月	恒藤記念室叢書2 恒藤恭滝川事件関係資料 神戸時代の井川（恒藤）恭 大阪市立大学大学史資料室	平成23年3月
金沢大学資料館だより 第38号 金沢大学資料館	平成24年3月	譽誌（コウシ） 第7号 日本大学広報部大学史編纂課	平成24年3月
金沢大学資料館紀要 第7号 金沢大学資料館	平成24年3月	神戸大学附属図書館大学文書史料室 利用案内 神戸大学附属図書館大学文書史料室	平成23年11月
関西大学年史紀要 第二十一号 関西大学年史編纂室	平成24年3月	芝浦工業大学の歩み 1927～2011 谷本宗生	平成24年3月
関西学院史紀要 第十八号 関西学院学院史編纂室	平成24年3月	西南学院史紀要 Vol.7 学校法人西南学院	平成24年5月
関東学院学院史資料室ニュース・レター 第15号 関西学院学院史編纂室	平成24年1月	専修大学史紀要 第4号 専修大学 大学史資料課	平成24年3月
北の丸—国立公文書館報— 第四十四号 国立公文書館	平成24年1月	1880年代教育史研究会ニュースレター 第36～38号 谷本宗生	平成24年1, 4, 7月
旧制高等学校記念館 記念館だより 第56号 谷本宗生	平成24年3月	大学史研究通信 第69, 70号 谷本宗生	平成24年2, 4月
京都大学大学文書館だより 第22号 京都大学大学文書館	平成24年4月	大学アーカイヴズ No.46 全国大学史資料協議会東日本部会	平成24年3月
京都大学大学文書館研究紀要 第10号 京都大学大学文書館	平成24年3月	大学史活動 第34集 明治大学総務部総務課（大学史資料センター）	平成24年5月
近代日本研究 第28巻 慶應義塾大学福澤研究センター	平成24年2月	大学史資料室ニュース 第16号 大阪市立大学大学史資料室	平成24年3月
近代日本の国学と漢学—東京大学古典講習科をめぐって 教養学部国文・漢文学 齋藤希史・品田悦一	平成24年3月	最後の旧制高校 東洋高等学校—教養教育への挑戦—占領期に —瞬の光芒を放って消えた特設旧制高校の全容 東洋学園大学 東洋学園史料室	平成24年

大学史編纂課だより 第3号 日本大学広報部大学史編纂課	平成24年2月	広島大学自校史教育実施報告書2001～2010（下巻） 広島大学文書館	平成24年3月
大東文化歴史資料館だより 第12号 谷本宗生	平成24年5月	山学院年史紀要 第31号 桃山学院史料室	平成24年3月
中央大学史紀要 第十七号 中央大学入学センター事務部大学史編纂課	平成24年3月	桃山学院の歴史 2012 桃山学院史料室	平成24年4月
坪井家関連資料目録 東京大学大学院情報学環附属社会情報研究資料センター	平成24年3月	立教学院史研究 第9号 立教学院史資料センター	平成24年3月
東京工業大学博物館・百年記念館 東京工業大学博物館	平成23年6月	立命館百年史紀要 第二十号 立命館百年史編纂室	平成24年3月
東京工業大学百年記念館 NEWS 1～5 東京工業大学博物館	平成19～21年、平成23年3月	龍谷大学史報 vol.12 龍谷大学大学史資料室	平成24年3月
東京大学経済学部資料室年報 第2号 東京大学経済学部資料室	平成24年3月	平賀肅学と大学人—東京帝国大学「評議会記録」からの考察—（抜刷） 堀之内敏恵（お茶の水女子大学大学院）	平成24年3月
同窓会通信 第9号 一高同窓会	平成24年2月	（史料紹介）明治前期豊橋での漢学講義史料（抜刷） 田崎哲郎	平成24年
東北大学史料館だより 第16号 東北大学史料館	平成24年3月	竹岡敬温名誉教授に聞く—大阪大学の思い出—（抜刷） 大阪大学文書館設置準備室	平成23年6月
帝国大学学生史資料の基礎的研究—東北帝国大学を中心に— （科学研究費補助金 基盤研究（C）2008～2010年度） 東北大学史料館 永田英明	平成24年3月	UNHCR国連難民高等弁務官事務所におけるアーカイブ資料整理ボランティア—ISAD（UNHCR）の存在と、作業としての資料整理—（抜刷） 谷本宗生	平成24年
日本の財政学を築いた薩摩藩士 ～専修大学創立者・田尻稻次郎の生涯～ 専修大学 大学史資料課	平成23年11月	〈一高資料〉フィルムセンター所蔵作品「本郷より駒場への移轉式 皇紀二千五百九十五年九月十四日」（DVD） 細谷恵子	
名古屋大学大学文書資料室ニュース 第29号 名古屋大学大学文書資料室	平成24年3月	「哲学字彙」稿本と『英独仏和哲学字彙』の成立（抜刷） 真田治子（立正大学）	平成24年3月
名古屋大学大学文書資料室紀要 第20号 名古屋大学大学文書資料室	平成24年3月	東北大学史料館紀要 第7号 東北大学学術資源研究公開センター史料館	平成24年3月
成瀬記念館 No.27 谷本宗生	平成24年7月	「近畿大学の大学アーカイヴズ構築に関する基礎的研究」研究報告書 近畿大学教職教育部 富岡勝	平成24年2月
ニュースレター明治大学史 vol.9 明治大学史資料センター	平成24年3月	Die Stadt mit i-Kuh/Stadt Bietigheim-Bissingen 2000年 ゲルマン・スザンネ（ビーティヒハイム・ビッシンゲン市立博物館）	
人間形成と修養に関する総合的研究 第51集 （財）野間教育研究所	平成24年5月	東京大学 各学部規則集 平成24年度 本部広報課より提供	平成23年4月
広島大学文書館紀要 第14号 広島大学文書館	平成24年3月	法学部卒業記念写真帖 昭和三年三月 平成24年度購入	昭和3年3月



## 史料室日誌抄録（平成 24 年 2 月～平成 24 年 7 月）

- 2月9日（木） 史料デジタル化に伴い、史料室所蔵戦前期写真帖33冊搬出。  
3月9日（木） 上記写真帖電子データ完成納品。  
3月22日（火） 『東京大学史史料室ニュース』第48号刊行、発送。  
『東京大学史紀要』第30号刊行、発送。  
3月31日（土） 『巽軒日記—自明治三三年至明治三九年—』刊行。  
4月16日（月） 谷本室員、村上室員、写真帖中性紙箱詰め作業完了（史料室）。  
4月26日（木） データベース科研交付申請書類等に関する打合せ（史料室）。  
工学部藤井恵介先生他来室（史料室）。  
5月2日（水） 情報学環玉井支援員より、データベース科研交付書類提出。  
5月11日（金） 吉見室長、総務課、室員打合せ（本部棟7階会議室）。  
5月21日（月） 谷本室員、村上室員、先端研広報室との打合せ（先端研風洞施設）。  
6月7日（木） 谷本室員、小川室員、情報学環・社情センターへ撮影のため文部省往復1冊搬出。  
6月18日（月） 改修工事に伴う打合せ（第二本部棟1階小会議室）。  
6月22日（金） 改修工事に伴う居室移転先確認、打合せ（医学部1号館内）。  
6月17日（金） 第6回大学史料収集・管理の在り方に関するWG開催（本部棟会議室）。  
7月18日（水） 引っ越しに伴う打合せ（史料室）。  
7月23日（月） 工学部藤井恵介先生他来室（史料室）。  
2月～7月 月1回、国際資料研究所小川千代子先生との打合せ（史料室）。

### この間の閲覧者数

学内者 12名  
学外者 37名

### 主な学外閲覧者所属機関

愛知県立大学、茨城県庁、宇都宮大学、お茶の水女子大学大学院、学習院アーカイブズ、京都大学、  
国際日本文化研究センター、上智大学、中央大学大学院、東京家政大学、名古屋大学大学院

### その他

文献撮影・複写許可件数 46件  
調査（照会）件数 55件

題字 森 巨元総長

東京大学史史料室ニュース 第49号

発行日：2012年11月30日（年2回発行）

編集・発行：東京大学史史料室

東京都文京区本郷7-3-1

電話：03（5841）2077（直）

印刷所：株式会社 ワーナー

Archives Section of the University of Tokyo

千葉県稲毛区六方町13-2